

メキシコの花 キバナコスモス

(学名 : *Cosmos sulphureus*)

横井政人

コスモスといえばメキシコというほど、メキシコはコスモスの原生地で有名である。

「花葉」15号表紙に安藤敏夫先生のコスモスの群落の写真を使っている。花色のピンク色の種類でこれがふつうのコスモス (*Cosmos bipinnatus*) である。今回の表紙の写真はやはりコスモスであるが、キバナコスモス (*Cosmos sulphureus*) で、花色がオレンジ色の種類である。本種もメキシコが原産地であり、両種とも世界的にふつうに栽培されている種類である。この写真は1975年にメキシコ ケンタロー州で私が撮影したものである。

野生地のメキシコでもふつうの種類であるが、メキシコは日本の5倍もある国なので、ちょっとメキシコに行ってもどこに生えているのかわからない。しかもこれらの2種が同じ場所に生えていない。安藤先生もいわれるように、生態学のことばの「住み分け」で、生えている場所が異なり、いっしょに生えていないのである。先生の写真はメキシコ首都メキシコシティ近くのものであるが、この辺にはキバナコスモスは見られない。

キバナコスモスは太平洋岸に近い州や中部の州に多いようである。例えば、ナイヤリット州、コリマ州、ケンタロー州などに見られる。しかも、コスモスはトウモロコシなどの畑の雑草となって生えていることが多いが、キバナコスモスは開けた道路端で日当たりのよい場所に、

コスモスより小さい群落で野生している。生えている海拔も違いキバナコスモスのほうがやや高温の低地に多く、コスモスは高地の涼しい高原に多い。いずれの種類もサボテン類が生える砂漠地帯や熱帯降雨林下には自生していない。

このような自生地からみて、日本で栽培する場合でも、コスモスは涼しい高原でよく伸び、花色が美しいが、キバナコスモスは暑いところでも生長がよく、花色にはあまり影響しないことがわかる。野生種といっても花色や株の状態は日本で栽培する園芸品種とそれほど変わらないので、特にコスモスは大群落になれば見事である。ただ現地では花のあと種子が畑に散ると除くのが大変で、強烈な雑草になり、困っている。

ただ野生種が園芸品種と根本的に異なる点もある。それは日本で栽培すると日が短くなる初冬にならないと花が咲かないことである。すなわち、開花に強い短日性がある。周知のように現在のコスモスの品種は育種の成果で日が長い春から夏にも花がよく咲くようになり、開花期が日長にあまり影響されず栽培しやすくなっているわけである。

近辺にはハクニチソウ、ルコウソウ、ショウジョウソウ、ポインセチアが見られた。



メキシコの花 キバナコスモス (学名 : *Cosmos sulphureus*)